

# 令和5年度 愛心こども園 事業実績報告

自 令和5年4月 1日  
至 令和6年3月31日

## 事業の総括

はじめに

令和2年4月、愛心保育園から幼保連携型認定こども園、愛心こども園へと名称を変更し、心も新たにスタートしてから丸4年が経ちましたが、その間、本当に色々な事がございました。その中でも令和2年度から4年度にかけてはコロナが猛威を振るい、子どもたちや保護者、そして職員といくつもの困難にぶつかりながらも共に支え合い、力を併せて1年1年を乗り越えて参りました。玉重福社会役員の皆様のお力添えもいただきながらお陰様で5年目を迎える事が出来ました事を大変ありがたく、心から感謝の気持ちで受け止めております。

さて、改めて令和5年度を振り返ってみますと、令和5年5月8日に約3年ぶりにコロナウィルス感染症が5類へ移行し、やっと以前に近い保育活動ができるようになりました。運動会や発表会なども保護者の人数制限を無くしながらも、3歳以上児と未満児で時間や日程を分けて行う等、子どもたちにかかる負担などを考慮して開催し、久しぶりに保護者の皆様の沢山の笑顔や声援を受け、子どもたちも元気いっぱいにとっても嬉しそうな表情で各行事を楽しみながら頑張ってくれました。

又、令和5年度より「子ども主体」「こども真ん中」という教育・保育を掲げ、本格的に取り組んでいく中で、様々な試行錯誤を繰り返しながら、職員間でも勉強会や園外研修、他園の見学などを通して、「子ども主体」とは何かを勉強し、話し合いを重ね、保護者の皆様へもご理解とご協力をいただきながら、少しずつではありますが良い方向へと進むことができました。

令和6年度も子どもたちの人権を尊重し、子どもたち1人1人が持っている素晴らしい個性と可能性を沢山引き出せるよう、職員一同力を併せて頑張っていきたいと思っております。

# 令和5年度 第2 愛心こども園 事業実績報告

自 令和5年4月1日

至 令和6年3月31日

## 事業の総括

令和5年度は約4年ぶりにコロナウイルス感染症の影響を受けることなく、園生活や教育保育内容、各行事の面でもいろいろと工夫しながら実施することができました。

そのような中でも玉重福祉会の基本理念である「思いやり保育」～手伝う・励ます・ありがとう～の心を基本に据えて、「保育は愛なり 愛は力なり」という保育理念のもと、100名の2号、3号認定児と13名の1号認定児の子どもたちを迎え、地域の子育てセンターとして、常に子どもや保護者の視点に立った、温もりのある保育実践を職員一同、精一杯行ってまいりました。

そして、今年度も当園の特色である漢字遊び、お習字、英語で遊ぼう、食育活動及び、毎月の行事等、「子ども主体」の活動内容を職員が試行錯誤しながら実施したことで、子ども達の経験の場が増え、多くの保護者様にも喜んで頂きました。

### 【職員の資質向上について】

各研修においては、昨年に続きオンライン研修が主流でしたが、会場に出向く機会もあり、各職員学びを深めることができました。

またキャリアパスの研修においては、8名の職員が分野別の各研修を積極的に受講し、各リーダーをはじめ職員が専門性を発揮しながら、子ども達のより良い成長のために、保護者支援にも奮闘し、子どもの最善の利益を基本に保育教諭という高い使命感のもと、日々の教育保育に力を尽くすことができました。

更に今年度は、恒例の日本保育協会主催「第18回保育実践研究」において、「ICTの活用で広がる保育と深まる支援」をテーマに、1年半に渡り実践研究を積んでまとめた内容が、優秀賞として高い評価を頂けたことも、職員の学びと励みに繋がった事と思っております。

### 【チューター制度・その他について】

また、取り組みを始めてから9年目となる“チューター制度”については、職員マネジメントリーダーの役割を担う職員が、パートナー決定や時間調整等を行い実施しましたが、年3回の予定が2回の取り組みになったことは次年度、改善に繋がりたいと思います。

更にその他、安全管理、環境整備についても事業計画通り進めることができ、各職員で分担し丁寧に行うことができましたことをありがたく思っております。

### 【おわりに】

令和5年度も地域に根差した児童福祉施設としての使命を果たせるよう、職員一同福祉の心をもって、子どもたちとそのご家族のより一層の幸せを願って、日々努めてまいりました。おかげ様で無事に令和5年度を終えることができましたことに、心より感謝申し上げます、事業実績報告と致します。